

十一日町龍組・平成二十二年度

# 八戸三社大祭参加120周年記念祝賀会



平成22年10月23日(土) PM6:30

八戸グランドホテル 2F

主催 十一日町龍組  
協賛 おがみ神社

八戸三社大祭 参加120周年記念祝賀会

120周年を記念し下記優勝旗2本を復元!!



※昭和4年 初めて第1位を受賞した優勝旗



※昭和29・31・32年(30年は審査廃止の為)  
二年連続第1位となり受賞した特別優勝旗

十一日町龍組 平成二十二年度

## 八戸三社大祭参加120周年記念祝賀会

### 式次第

平成22年10月23日(土) PM 6:30  
八戸グランドホテル グランドホール  
司会 石岡知華

- 1 開 会
2. 法霊神社 お神楽歯打ち
- 3 主催者挨拶 十一日町龍組 山車責任者 鈴木英明
- 4 御来賓祝辞 八戸市長 小林 眞 様  
衆議院議員 大島 理 森 様  
衆議院議員 田名部 匡 代 様  
八戸郷土史家 正部家 種 康 様  
(社)八戸観光コンベンション協会 会長 笹 垣 正 弘 様
5. 乾 杯 はちのへ山車振興会会長・青森県議会議員 滝 沢 求 様
- 6 余 興 第43代青森県民謡王座 小 坂 勝 義 様
7. 中 締 め
- 8 閉 会

# 兼業農家のハシリ



古文書によればいまの本覚寺がある通りを「寺小路」と記されている。おそらくは来迎寺、願榮寺、本覚寺の二カ寺が集中している横町というところから俗称されたものらしいが、大火前の本覚寺山門は杉木立ちがうつそうとして昼なお薄暗い小路で、夜になればキツネが出没してしっばでいたずらして戸をたたくという具合のところであったため、女学生などは日中でもこの寺小路を避けて通ったものだ。

藩政時代には塩町とも呼ばれていたのは、町内に塩を売っている店があり、十三、一十三、二十八日の月三回市日がたち塩専門の露天商がならんだものだし、また大きな塩倉庫があったりしたことからシオチョウ、塩丁といわれるようになったと古老は説明している。

明治、大正のころは町内の半数以

上が農家だったが、副業として荷馬車をもち、商店の荷物運送をやっていたというから、兼業農家のほしりみたいなのだったろう。

明治二十四年一月県最初の盲人学校が永洞清吉氏の手によって朔日町に建てられた。同三十七年 月焼失したため町内の九十洋服店のごころに移転し、東奥盲人教養教訓会と称し、広く三八地方の盲人の教養と技術習得に当たった。盲人たちは当時はやった胡弓をよく習い、祭礼や市日るとき各家を回って門付けしたものが、追分や当時はやり歌などをひいたり、口ずさんだりし、何がしかの喜捨にあずかった。

この盲人学校は大正十三年の大火で焼失したため昭和十二年四月に県立八戸盲啞学校として復活し、改称され現在に至っているが、説によれば昔から県内で三八地方が盲人の最も多いところだという。

有名な消防団の竜組は明治十年一月に町内の私立消防としてスタートした。当時の頭取(小頭)は富田孫太、副頭取田村徳松さんなどだったが、明治二十七年私立消防は解散され町立消

防団として再編成された。

エンブリ組とはちのへ祭のつけ祭りの伝統も古い、特につけ祭りは三社大祭に山車(だし)が繰り出すようになった。明治二十四年(明治憲法制定記念)から出場しているが、優勝旗を市が出すようになってから三年連続優勝旗を飾っている。

若宮八幡宮(坂本栄治オガミ神社宮司兼任)は、根城南部氏が遠野へ転封したさい小林某という武士が彼の地の八幡宮から祠(ホコラ)を分けてもらい現在地(本覚寺裏手)に建てたものだが、昭和三十年町内有志がきよ金し合って



簡易側こうの整備望まれる十一日町

本殿の建て直しをやった。

八戸藩初代直房公につかえた五人家老の人、池田先右衛門は熱心な浄土真宗の信者であったが、北奥羽に同宗の寺院がなかったことから直房公へ願い出て長者山ふもとの土地を拝領した。のちに現在地へ小庵を建立したが、これがいまの本覚寺で、開祖は樹誓庵釈南柳。寺号は延宝年間に公証したが山号は平沢山。大火で焼失した山門は、普通八脚でこしらえられている山門のなかにあつて、どういうものかこのものは六脚でできているという変わったものだった。現住職広田豊柳氏は十代目。寺の裏手が有名な勘太郎堤になっていたため、大火のときポトで脱出したというエピソードがついている。

西本願寺派の本覚寺に対して東本願寺派に属する法照山願榮寺(吉川彰英住職)は状慶和尚によつて寛永十年五戸、石沢村に徳玄寺というかたちで建立された。のちに八戸が隆盛をみせてきたため延宝六年現在地へ移転した。徳玄寺は田名部(むつ市)へ移り徳源寺となつている。記録、寺宝などは大火で焼失したが、ご本尊は阿弥陀如来で木彫り寄せ木造りの金メッキ。八戸唯一の弓道場が境内にあり、中、高校生で毎日にぎわっている。

町内会のなかでは婦人部がなかなか活発で、春秋一回のレクリエーション、編み物手芸講演会、踊りなどに精をだしているが、ひまわり子

供会も新聞、テレビなどに紹介されるなどしている。

「寺小路」が舗装されたため夕方から十一時ごろまでマイカー族の駐車場とされてしまったり、ハイスピードで通り抜けるドライバーが多く事故が懸念されているため、関係当局に善処方を申し入れている。また類家たんぼに通じる下水が経由しているが、流れ具合がきわめて悪く不潔になりがちで、月三、四回のドブさらいを余儀なくなれているため、早急に簡易側こうで整備してほしいという要望が強い。

寺小路の照明が少なくて、たまに夜 人歩きの女性がおびやかされることなどがあるため、もっか一カ年計画で水銀灯の設置プランが進められている。

世帯数 五。町内会長広田豊柳氏。副会長、行政員大浦岩松氏。副会長吉川正英氏。民生委員富田謙三氏。婦人部長宮本敏子さん。納税貯蓄組合長田村亀吉氏。会計部長木村喜 氏。保健衛生部長高橋さつきさん。

# 十一日町龍組120年の歴史

年度	山車題名	賞(等級)	年度	山車題名	賞(等級)
明治24	鎧武者行列		昭和15	戦時下山車はなく 武運長久行列	
↓			16	中 止	
45	↓		17	不 明	
大正2	那須の与一扇を射る		↓		
3	紅葉狩りの囃		20	↓	
4	小野道風		21	野狐三次	
5	宮本武蔵復讐		22	め組の喧嘩	
6	不 明		23	狸 御 殿	
7	岩見重太郎の武勇		24	お祭り佐七	優 良
8	不 明		25	原田甲斐	
↓			26	高田の馬場	
13	↓		27	早川鮎之助	
14	児 雷 也		28	根元草摺弓	秀 作
昭和元	不 明		29	天竺徳兵衛	第 位
2	樋口次郎兼光		30	和久半太夫	〈審査廃止〉
3	佐々木高綱		31	渡 辺 綱	第 位
4	敵艦樓錦	第 位	32	亡 霊 知 盛	第 位
5	夜討ち曾我狩場曙		33	関 の 扉	第 二 位
6	泊瀬山中の場		34	依藤太のむかで退治	第 一 位
7	不 明		35	布 弓 の 滝	第 一 位
8	大岡政談		36	百合若大臣	秀 作
9	丹下左膳		37	山 彦	第 一 位
10	櫛 卷 お 藤		38	成田不動と文覚上人	秀 作
11	白 虎 隊		39	瑞 鳳	秀 作
12	不 明		40	平和 (極楽浄土)	秀 作
↓			41	鬼 ケ 島	秀 作
14	↓		42	弁財天と毘沙門天悪神を追 いやる	秀 作

# 十一日町龍組120年の歴史

年度	山車題名	賞(等級)	年度	山車題名	賞(等級)
昭和43	常盤御前	優 秀 賞	平成7	新・三国志	優 秀 賞
44	鬼の首とる渡辺綱	秀 作	8	酒吞童子	秀 作
45	恵比須大黒	秀 作	9	新・桃太郎	秀 作
46	自 来 也	秀 作	10	風流才女・紫式部 ～源氏物語～	最優秀賞
47	源頼光と怪賊鬼童丸	努 力 賞	11	萌記～ものけ伝説～	秀 作
48	源三位・頼政の鶴退治	秀 作	12	日本創世記伝説 「新・ヤマトタケル」	秀 作
49	関 の 扉	努 力 賞	13	ヤマトタケル	優 秀 賞
50	宮本武蔵と巖流島の決闘		14	新・三国志「王風万里」 ～孔明の南蛮国王孟獲狩り～	秀 作
51	赤穂浪士討入り		15	新・三国志 ～南蛮国王孟獲の奇襲～	審査なし
52	悪源太義平布弓の滝		16	新三国志 ～蜀王・劉備玄德と五虎大將軍～	優 秀 賞
53	豊年の舞		17	三蔵法師天竺への道 ～京劇 三打白骨精～	秀 作
54	鎮西八郎為朝の強弓		18	「天下布武」 織田信長と戦国武将	敢 闘 賞
55	昇天かぐや姫		19	スーパー歌舞伎 新 竹取物語カグヤ	秀 作
56	南総里見八犬伝・芳流閣の場		20	娘道成寺	敢 闘 賞
57	船 弁 慶	努 力 賞	21	～八戸義経伝説～ 久我御前と法霊山縁起絵巻	優 秀 賞
58	七福神恵比寿浜大漁の場	努 力 賞	22	参加百二十周年記念 「神話 海彦山彦物語」～豊漁万作祈願～	秀 作
59	七 霊 知 盛		<ul style="list-style-type: none"> <li>●最優秀賞 (第一位) 5回受賞 昭和4年 昭和29年 昭和31年 〳 32年 平成10年</li> <li>●優秀賞 (第二位) 7回受賞 昭和24年 昭和34年 昭和35年 〳 37年 〳 43年 平成7年 平成21年</li> <li>●優秀賞 (第三位) 4回受賞 昭和33年 平成5年 平成13年 平成16年</li> <li>●秀 作 22回受賞</li> <li>●努力賞 5回受賞</li> <li>●敢闘賞 2回受賞</li> </ul>		
60	娘道成寺・龍変化の場	秀 作			
61	恵比寿大黒招運の舞				
62	摂州大物浦・怨霊知盛				
63	祝舞豊年獅子と牡丹				
平成元	龍虎の戦い				
2	敦 煌	秀 作			
3	ラストエンペラー (中国最後の皇帝)	秀 作			
4	孫悟空分身の術 妖魔退治の場	努 力 賞			
5	孫悟空・羅殺女との戦い	優 秀 賞			
6	「新 娘道成寺」 亡霊清姫龍変化の場				



昭和23年 「狸 御 殿」



昭和2年 「樋口次郎兼光 (当龍組最古の写真)」



昭和24年 「お祭り佐七」 優 良



昭和5年 「夜討ち曾我狩場曙」



昭和27年 「早川鮎之助」



昭和25年 「原田甲斐」



昭和29年 「天竺徳兵衛」 第一位



昭和26年 「高田の馬場」

昭和三十一年

山車作りは代々継承 審査制が生んだ「下り派」  
山車の製作

三社まつりの山車製作の技術は代々受けつがれ、各町内の名人たちがその腕を競っている。始めの頃はほとんど自作人形だったが、等級がつけられるようになってから出来上がった人形を買ってくる傾向で、現在は「自作人形派」と「下り人形派」と相半ばし、それぞれ持ち味を出している。人形作りの名人といわれている人に故村井勇蔵(六日町)類家久次郎(塩町)村井文次郎(二十六日町)の各氏があり、これらの町内からは数多くの優れた山車がだされた。

山車の審査

昭和にはいり当時あった「はちのへ新聞社」が優秀な山車の表彰を行ったが、これは人気投票によったので投票用紙が売買されるほどの熱狂的なせり合いを行った。戦後、昭和二十四年からは八戸観光協会が各部門の専門家による審査を行い等級をつけていたが、昨年は、応山車の水準が平均化したという理由で審査を取りやめた。しかし世論の要望によって今年からまた復活し、等から三等までと佳作五点を表彰することになった、山車の審査は自作人形と下り人形との評価の基準が難しくとかく問題が多い。

昭和三十一年

山車のうつりかわり

藩政時代から明治始めころまでの山車は、いまのように車にのせ綱で引くのでなく屋根のついた屋台の上に人形をあげ、十数人の若者たちがオミコシのようにかつぎ「ワシヨ、ワシヨ」と掛け声勇ましく練り歩いたり、御所車にのせ牛にひかせたりしたこの山車は大きな商店でだし人形は京人形を買ってきたものだが、大部分大正十三年大火で焼失、わずかに「西町の鬼」と呼ばれる一十八日町西町屋の「為朝と鬼」八日町河内屋の「武田信玄」二日町近江屋の「太公望」などが残っており、オガミ神社に保存されている。

いまのような綱で引く山車が現われたのは明治十六年で、鍛冶町の「仁木弾正」がでた。その時まで行列に人夫として加わっていた鍛冶町の若者たちが具足をつけるのを嫌い、そろいのユカタに豆しぼりの手拭姿でフェ、タイコの拍子をつけ、山車を引いた。その後このイキ姿が各町内に普及、商店の山車はだんだん姿を消していった。

このころの山車は二十尺もある張子の「岩」の上に人形をあげ横と後に「滝」を落し「波」や「水玉」をあしらったもので、高さはいまの一倍から三倍もあって各町内は高さを競いあい一般に「素朴」で「勇壮」なものが多かった。

明治三十四年に電灯がつき街に電線が張られ

山車の数

台の山車を動かすのに百人からの「引き子」を必要とするが、最近人手不足のため、部の町内で「お祭りの危機」ということがいわれている。一日町、八日町の表通りが山車を出せなくなったのは商店街が発展し手不足になったため、これと同じ理由で山車をだせなくなる町内が二、三できてきている。しかし反面毎年新しい町内の参加があり今年十九台でいままでの最高となり全体としての豪華けんらんさは増す 方である。なお明治時代から出ていた鯨、小中野の見番の屋台は、戦後小中野だけになったが行列に花をそえている。

子供とお祭

戦前は男の子しかお祭りに加わらなかったが、戦後は男女同権になって女の子も山車を引き賑やかにになった。山車を出すのは町内の「若者連」ということになっているが、最近子供連の考え方になってきている。昔は大人たちの飲み食いに多く費用が使われたがだんだん子供たちのペントウやオヤツに費用をかけるようになるようになって山車を低くしなければならなくなり、高さを調節するトリックなども考案されたが「岩」がだんだん低くなり、大正時代に入ると「岩」代りに朱塗りの「ランカン」が用いられるようになった。また淋しくなった裏面を生かすため後にも人形をつける「見かえし」も考案された。このころは山車が小型になったので全体の「調和」が重んぜられ昔の素朴さが失われ「技巧」の時代になり戦前まで続いた。

戦後の山車は製作技術が向上し、幾何学的直線の組合せの面白さをねらったものや極端なデフォルメ(変形)で主題を強調したり、いままでの山車にはなかった近代的なセンスが織りこまれるようになり、新感覚による傑作が多く生れた。また、方写實的に古い山車の型を守ろうとする気運もあり、各町内それぞれ持ち味を生かして腕を競っている。最近はお光という見地から華やかなものが好まれ「下り人形」といって出来あがった人形を買ってくる町内もふえ、一般に「豪華」さをまし「華麗」になってきている。

商店が山車をだした時代の人形は毎年同じものだったが町内の消防団や若者連が付祭をだすようになってからは山車の名題が毎年異なり、その変化がお祭をいっそう楽しいものにしていく。

明治年間山車は武勇伝を扱った「武者物」



昭和31年 「渡辺網」 第一位



昭和32年 「亡霊知盛」 第一位

が圧倒的に多かったが大正、昭和になると「妖怪変化物」「歌舞伎調」「世話物」など好んで作られるようになり、内容が豊富になってきた。戦争が長びくにしたがって山車の数は減っていったが、山車も「爆弾三勇士」「神武天皇」などの軍国調になっていった。

【写真 山車つくり】

—この頃岩岡記者—



昭和34年 「俵藤太のむかで退治」 第二位



昭和29・31・32（30年は審査廃止の為）と三年連続第一位となり、屯所で祝賀会の模様



昭和35年 「布引の滝」 第二位



昭和33年 「関の扉」 第三位

細かく面倒な仕事 得ぬきではむい お祭り好き 「明るいものが念願 だし作りの苦心 十一日町の場合

お祭りの本当の楽しさは実際にだしを作ってみてこそ味わえるものと言われる。徹夜してまで苦勞を重ねて作っただしを胸を張って引き回すときに本当のお祭りのだいい味を満喫できるものだろう。だしはそう簡単にできるものではない題材の選定、予算の規模など各町内ともかなり苦心を払っている。だしを作りはじめてから四十年以上、戦後審査制が実施されてから三年連続優勝などの輝かしい伝統を誇る八戸市十日町内のだし作りを紹介しよう。

四十畳敷きはある十日町消防とん所の一階、ここがだし作りの作業場である。ことしは七月下旬から製作にかかり毎晩八時ごろから十時ごろまで、常時一、三人の人たちが 生懸命に紙を張ったり、彩色したりしている。題名は「百合若大臣」。この十日町は純然たる下町だ。町内には大工、板金、塗装などの職人が多い。そうゆうところから自然町内の空気はいわばウエットの。お祭りの実行委員ともいべき役員(三人ずつで三年交代)を決めるにも年功などによって選ぶ。この三人を中心にいわゆる「お祭り好き」の人たち数十人が損得抜きで働くのだから、立派なだしができないのはふしぎなくらい。その年のだしの題材は前年の祭りが終わって慰勞会が開かれたときから検討される。戦後のだしの大半を指導してもらっている村井治兵衛さん(別項紹介)の意見やら、役員、町民の論議を煮つめていって、大体祭りの一ヶ月ぐらい前には決定版を出す。それからすぐ材料集めにか



昭和37年 「山彦」 第二位

かるわけだ。それぞれの人形の塗り替え、衣装のあつらえ、背景のくふうなど仕事はなかなか細かく面倒なものである。

さて、ヶ月間のだし作りも終わりに近づき、二社大祭の二緊張した瞬間だ。人形や背景を注意深く運び、夜のふけるのも忘れて組み立てる。人形の位置はどうか、全体的な視覚はーと気をくばる。

だしが完成するとこんどは寝ずの番を催いて警戒しなければならぬ。祭りの前夜に背景の岩にたくさん穴をあけられたことがあったし。そのほかにも何回もいたずらされている。祭りの当日にこれを見つけて、大あわてで修理したにがい思い出も再三あるという。祭り当日、だしの審査が行なわれる。みんな腕によりをかけ、苦勞して作っただけに、なんとかして優勝旗を獲得したいと願うのは人情だ。だが十日町のだし作りの人たちは案外このことには関心が無い。過去に何度も優秀な成績をおさめているためかもしれないが「確かによいだしを作りた」とは思っているが、等賞をねらう気持ちは全然ない」と口をそろえて語る。あくまでも明るい、気持ちのよいだしを作ることが念願。ただ等外に落ちた場合にはだしを引く子どもたちがしょんぼりしてかわいそうだともいう。だから賞をねらわなくてもそのレベル以下のだしを作りたくはないというのが大方の気持ちのようだ。

戦後は 時占領軍からカタキ打ちを主題にしたものが禁ぜられたこともあったが、現在は山



昭和36年 「百合若大臣」 秀作

車の名題には何の制限もなく、各町内それぞれの伝統にしたがって得意の腕をふるっている。最近では「オトギ話」が入賞上位を独占したこともあったように、誰にでもわかる大衆に愛される山車が多くなった。また十和田湖の伝説に取材した「南祖坊」や「鯉の滝のほり」「こまいぬ」などは戦後の変わった趣向として注目されている。



昭和38年 「成田不動と文覚上人」 秀作



昭和41年 「鬼ヶ島」 秀作



昭和39年 「瑞鳳」 秀作



昭和45年 「恵比寿と大黒」 秀作



昭和40年 「平和（極楽浄土）」 秀作



平成5年 「孫悟空と羅刹女の戦いの場」 優秀賞



昭和47年 「源頼光と怪賊鬼童丸」 努力賞



平成7年 「新・三国志」 優秀賞



昭和52年 「悪源太義平布引の滝」



平成8年 「酒吞童子」 秀作



平成9年 「新・桃太郎」 秀作

平成10年 ふうりゅうさいじょ 風流才女・紫式部～源氏物語～ **最優秀賞**



平成13年 「ヤマトタケル」 優秀賞



平成11年 「〜萌記〜『もののけ伝説』」 秀作



平成14年 「新・三国志『王風万里』～孔明の南蛮国王孟獲狩り～」 秀作



平成12年 「日本創世記伝説 新・ヤマトタケル」 秀作



平成17年 「三蔵法師天竺への道～京劇・三打白骨精～」 秀作



平成15年 「新・三国志～南蛮国王孟獲の奇襲～」 審査なし



平成18年 「『天下布武』織田信長と戦国武将」 敢闘賞



平成16年 「新三国志～蜀王・劉備玄德と五虎大將軍」 優秀賞



平成21年 「～八戸義経伝説～久我御前と法靈山縁起絵巻」 優秀賞



平成19年 「スーパー歌舞伎 新・竹取物語カグヤ」 秀作



平成22年 「参加百二十周年記念『神話 海彦山彦物語』～豊漁万作祈願～」 秀作



平成20年 「娘道成寺」 敢闘賞





本日の祝賀会に御多忙のところ御出席下さいまして誠にありがとうございました。

今後とも、十一日町龍組を何とぞよろしくお願い申し上げます。

十一日町龍組	相談役	川村	雄藏
〃	相談役	三浦	隆宏
〃	相談役	田村	嘉章
〃	会長	石橋	晃寛
〃	山車責任者	鈴木	英明
〃	製作責任者	杉本	智晴

十一日町龍組製作スタッフ一同

おがみ神社	宮司	坂本	守正
〃			総代祭事委員
〃			町内会長